

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 45 回 LLW 放射能評価分科会議事録

1. 日時： 2021 年 10 月 21 日（木） 10 時 00 分～11 時 20 分

2. 場所： Webex ソフトを使用しての Web 会議（日本原子力学会主催）

3. 出席者 （順不同，敬称略）

（委員） 高橋（主査），相澤（副主査），大畑（幹事），泉田，尾崎，柏木，小澤，佐々木，竹田，田辺，中田，原賀，伴場，平井，松居，見上，三宅，吉岡（全 18 名）

（常時参加者） 副島，中野，野崎，野田，林^(隆)，林^(宏)，古田，宮田，村上，本山，脇（委員候補者）（11 名）

（学会事務局） 牧野

4. 配付資料

F10Ph2SC45-0 第 45 回 LLW 放射能評価分科会 議事次第案

F10Ph2SC45-1 第 44 回 LLW 放射能評価分科会 議事録案

F10Ph2SC45-2 人事について

F10Ph2SC45-3 LLW 放射能評価分科会 倫理規程等受講状況フォロー表

F10Ph2SC45-4 L1 放射能評価標準の原子力規制庁による技術評価への対応状況について

F10Ph2SC45-参考 1 LLW 放射能評価分科会 (F10Ph2SC) 委員名簿

F10Ph2SC45-参考 2_FTC87-講習資料 標準委員会における倫理について

F10Ph2SC45-参考 3_FTC87-参考 3_原子力学会標準委員会倫理研修における意見概要

5. 議事

（1）主査挨拶，Web 会議における注意事項及び出席委員の確認

冒頭，高橋主査より，L1 放射能評価標準の原子力規制庁による技術評価への対応が前半の山場を迎えており，関係者の努力に感謝するとの趣旨の開会の挨拶があった。

大畑幹事より，会合開始時点で委員 18 名中 17 名が出席しており，定足数(12 名以上)を満足している旨の報告があった。(最終的には全委員が出席)

（2）前回議事録案の確認

前回分科会の議事録案（配布資料 F10Ph2SC45-1）について，大畑幹事より，事前送付してコメントがなかった旨説明があり，コメントなく承認された。

（3）人事について

大畑幹事より，F10Ph2SC45-2 に基づき，1 名の常時参加者（脇）の登録解除の報告があり了承された。引き続き，1 名の委員候補者（脇）の委員選任について，Webex の Chat 機能を用いて投票

を行い、反対意見なく承認された。

(4) 2021 年度標準委員会倫理教育について

分科会開催に先立ち、今年度倫理教育資料 (F10Ph2SC45-参考 2) や講義ビデオを用いて各委員が事前学習を実施した。分科会会合では、大畑幹事から、F10Ph2SC42-参考 3、及び見上委員から寄せられた意見を紹介し、その後、標準委員会の活動の在り方について議論した。

今回の議論を踏まえて、標準委員会を巡る課題が共有できるとともに、倫理教育結果を今後の分科会活動に生かしていくことが確認された。

倫理教育実施実績については、F10Ph2SC45-3 に基づき、原子燃料サイクル専門部会幹事に報告されることが確認された。

(5) L1 放射能評価標準の原子力規制庁による技術評価への対応状況について

大畑幹事より、F10Ph2SC45-4 に基づき、L1 放射能評価標準の原子力規制庁による技術評価への対応状況について、以下のとおり報告があった。

- 第 2 回検討チーム会合が 9 月 21 日に開催され、原子力学会からは、「中深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法に係る日本原子力学会標準の技術評価に関する検討チーム第 2 回会合における日本原子力学会への説明依頼事項に対する回答」を行い、その後、数多くの質疑があった。
- 一方、規制庁からは、(1)とりまとめ中の技術評価書 (案)、(2)第 3 回会合における日本原子力学会への説明依頼事項、(3)検討チーム会合での議論は不要であるが技術評価書を作成する上で規制庁として原子力学会から別途説明を依頼する事項、について紹介があった。
- 上記会合の開催後、学会が提出した 6 件の資料のうち、2 件の資料中に誤記があることが発見され、規制庁にその旨を報告した。標準中の参考文献リストに掲載している文献中の情報を抜粋して検討チーム会合用資料において使用する際の転記ミスとチェック漏れによって生じたものであり、技術評価検討チーム会合での議論に支障が生じないように、今後、作成者とは異なる者による提出資料のダブルチェックを徹底する。

上記報告に対して、高橋主査より、細部に亘る質問を沢山いただいております、関係者の努力に感謝したい。複数の評価手法や計算コードから 1 つを選択する場合における手法間の同等性確保、検出下限値を下げる努力や検出下限値以下のデータの信頼性確保など、いくつかの点において規制庁とまだ認識の違いがあるが、引き続き、学会として丁寧に説明していきたいとの発言があった。

なお、10 月 29 日開催予定の原子燃料サイクル専門部会会合で同様の報告を予定している。

(6) その他

大畑幹事より、次回会合では、(1) 2022 年度標準策定 5 か年計画案の審議、(2) L1 放射能評価標準の原子力規制庁による技術評価への対応状況についての報告 (継続) を予定との報告があった。

12 月中を目途に具体的な日時について調整の上、後日、幹事より連絡されることとなった。

以 上